

番匠川水系流域学識者懇談会

日時：平成 18 年 1 月 27 日 14：30～17：00

場所：大分県佐伯総合庁舎 5 階会議室

- ・ 設立趣旨、規約については了承。
- ・ 委員長は事務局推薦の島田委員にお願いしたい。異議なし。委員長は島田委員に決定。

○懇談会の公開について

- ・ 公開方法については異議がないので、事務局の案のとおりとする。

○委員からの主な意見

- ・ 津波対策については具体的な検討をしているのか。東南海・南海沖地震は大分川や大野川にはない番匠川特有の問題だ。
- ・ 今後の川づくりに「地元メディア」とあり、佐伯にはケーブルテレビなどがあると思うが、佐伯市を中心とするメディアなのか、大分県全体のメディアなのか。
- ・ 「地域住民の関心を高めるための広報活動」と書いているのだから、佐伯は番匠川の地域で、ネットワークや PTA と一緒にするなど、を川づくりの進め方に書くべき。
- ・ 長期的にみて河床が上下してないが、部分的に堆積している箇所について住民の方々が懸念しているということで、難しいことだと感じる。
- ・ 伏流現象について番匠川の特徴と書いているが、そのとおりだと思う。
- ・ 伏流現象は珍しい現象だとして、逆に地元の小中学生に PR して、見学会をしたらどうか。場所と時期など難しいかもしれないが、伏流現象を積極的に PR してはどうか。
- ・ 整備計画を国土交通省と大分県とが合同で立てるとするのは珍しい。同じ場で検討されて、一本の川として計画が立てられることは喜ばしいことだ。
- ・ 開発するときには考えて欲しいところをはっきりさせるべき。動植物に関する細かい資料もよいが、重点的などころと、そうでないところをはっきりさせるとよい。
- ・ 災害時には情報が伝わらなかった。平成 16 年は携帯電話が繋がらなかった。道路も分断された。救助にも行けない。各地域で危険を察知できるマニュアルを作ってはどうか。例えばこの赤いラインまで水がきたら危険なので黄色いラインまで水が来たら逃げようといったもの。地域コンセンサスが得られるようにすべき。
- ・ 平常情報として工事の情報を提示すべき。住民説明会を開催したり、工事途中にも細かく説明会をすとか、工事の表示の方法を工夫するなど。
- ・ 農業に従事している人は極端に草や木を嫌う。きれいに草を刈って雑草を極力排除しようとする。住民から川の木や草を切れと言われても、うのみにしないでほしい。有識者に意見を聞きながら、生態的なことを聞いて判断してほしい。

- ・現在の河川監視は堤防やゴミの投棄監視が主たる業務だと思うが、河川利用が盛んになったので、夏場のシーズンなどは利用者への啓発をしてほしい。危険な行為をしている人に注意をしたり、レスキューの資格をとって救助出来る人が河川監視をしてもらおうと住民が安心できる。
- ・川づくりの進め方について、大野川では流域懇談会を形成して、国や県と住民が一緒になってやりましょうと整備計画の中に書いて成功した。番匠川ではさらっと書いて、具体的ではない。これからは河川公園を作ってもメンテナンスを地域と一緒にやることが必要なので、流域懇談会を作るといった組織作りを記載して見える形にしたらどうか。番匠川でも今後の地域との連携で担保がとれるような書き方はできないか。
- ・最初は行政が主体で流域の人が集まっていたが、だんだん住民に移して、いまは流域ネットワークが中心に動いている。
- ・大野川は意図的に行政が組織作りをしていたが、番匠川は既に活動組織があるので、あえて計画にいれていなくてもよいと理解した。
- ・築堤、樹木伐採、掘削が大半であるが、具体的に護岸はどんな構造にするか、河床はどんな形状になるのか、見えない。流量確保の河川改修であって、自然について見えてこない。
- ・堤防周辺は草を刈ってきれいにしているが、これからは生物が生息しやすい工夫が必要である。高水敷も日常的に生物が利用できるよう一部のワンドではなく、もっと大きくするなど、全体的な対応が必要だ。
- ・住民は生えた木は切ってくれというが、川をどう考えるかという根本的なところを話合うべき。環境という項目は入ったけど、ほとんどいままでと変わらないことになりそう。20～30年たったときにどういう方向がいいのか根本的なところを国や県の力で考えて欲しい。
- ・水辺空間の考え方をこれまでのやり方にとらわれず、別の視点で考えて行く必要がある。
- ・番匠川は黒潮の影響を受けるので、魚の種類が独特である。回遊魚が大部分を占める。特に感潮域は海との関わりが強いが、まだ調査不足である。
- ・自然環境については連続性や自然のつながりを視野に入れて進めてほしい。
- ・檜野地区のような環境があれば、ほ乳動物は川に降りてくる。山から連続して川につながっているところが大事である。小半に河岸に樹林が発達していて、サルが川を渡るポイントがあったが、木がなくなったので今はサルが見られない。川に近い森を保全エリアとして考えておく必要がある。
- ・番匠川は水質がきれいだが、他の河川と同じ項目と回数の水質調査が行われている、無駄では？乱暴と思わないで欲しいが、特定項目は検出されないのはわかっていながら、お金を使って水質調査している。日本に先駆けて、調査のお金を減らして、こんなことに使っているぞといえればよい。それが出来るのは九州では番匠川だけだ。
- ・河口干潟の生態系は学会でも注目されている。番匠川の河口干潟の保全を付け加えてほ

しい。

- 整備計画原案の 70 ページに「…住民との協働による水質調査を実施し、水質の状況を把握します。」とあるが、これは水質管理上するというよりは、地域の人が水質保全や川に対する興味もってもらうための啓発活動といった位置づけにすべき。住民とする水質調査データはそんなに正しいデータがでるものではないので、水質管理には使えない。
- 治水と自然は矛盾するもの。治水をすれば必ず自然は変わる。大きな水が流れることも自然。大きな水が流れないことをどう考えるか。大きな水がヨシやアシを流していたが、上流にダムができて大きな水が出なくなって自然が変わった。本質的に矛盾がある。ちょっと水が出ても少しぐらい浸かっていいじゃないか、自然を守るためにという発想の転換があってもよい。住民が少しずつ理解できるような時期ではないか。初めから矛盾があるということでスタートしないと治水と自然が折り合わなくなる。
- 土砂の堆積は原因が上流にある。上流部の森や自然環境をどうしていくかを明記したほうがよい。山が荒れているのはみんな知っている。住民の啓発として、土砂がたまる原因はなにか考えるべき。
- 欧米では生態系の保全といってダムの撤去などが行われているが、日本とは勾配が違う。欧米の環境政策を日本に適用してもうまくいかない。番匠川独自の治水・利水・環境を考えていくべき。
- 今後は、実際に現地を工事するときにお手伝いしたい。声を掛けてほしい。